

毎日新聞 コラム「三重^{みえ}～る経済」
掲載 2023年10月23日(月)
タイトル ロゲイニングで地域おこし
執筆 百五総合研究所 川北 晃二

最近、駅で「ロゲイニング」の参加者を募集するポスターをよく見かけるようになった。ロゲイニングは、地図に示された多数のチェックポイントを制限時間内にできるだけ多く回り、獲得した点数を競うアウトドアスポーツ。1日があかりの大会もあるが、名所・旧跡をチェックポイントに、半日程度で気軽に参加できるものも多い。

得点は、チェックポイントで撮影した写真や専用アプリで判定するものが多く、スマホが広がり後押ししている。筆者も鈴鹿市内で開催されたイベントに初めて参加した。点数を集めるのに熱くなり、いつの間にか早歩きになった。初心者も十分に楽しめる。また、車でよく通る場所にも歴史的スポットがたくさんあることに気づかされた。

近畿日本鉄道は、沿線を活気づける目的で、市や町と連携して「鉄道ロゲイニング」を開催。広い地域をフィールド

にして、電車やバスといった公共交通機関での移動も可能にしているのが特徴だ。今年も、明和町、鳥羽市、菟野町、四日市市の順に、4地域で開催された。四日市市は、スポーツ推進を目的に、子育て世代をターゲットにした「四日市ファミリーロゲイニング大会」を毎年開催。人気が高く、すぐに定員に達することもある。

ロゲイニングは開催場所を選ばず、地域外の人にも知って欲しい場所にも人を呼び込むことができる。また、参加者が競技中に撮影した写真をSNSに掲載すれば、隠れたスポットの情報発信につながる。

主催者にとっては地元の魅力を見直す機会になる。大会の企画を通じて、学生が観光資源を研究する事例もある。ロゲイニングには、地域の魅力の発信に貢献し、地元愛を育む力がある。今後のさらなる広がりに期待したい。